

# 2017 多言語対応・ICT化推進セミナー ～東京2020 オリンピック・パラリンピックに向けて～ 「平易な英語」による多言語への対応

講演者：特定非営利活動法人情報通信政策フォーラム 理事長 山田 肇氏

日本に来た外国人への対応と合わせて、訪日を計画している段階の外国人への情報発信が大切。主要な情報提供手段はウェブサイトとなるが、多言語対応は多大なコストがかかる。

Googleを始めとした自動翻訳技術の進展は急速で、大量の対訳データを収集して人工知能を採用することで、統計的に学習する手法を確立している。しかし、日本語は文法の構造や主語の扱いなどが他の言語とは異なることから、やはり自動翻訳では精度が出しづらい。また、各国で研究・開発されている翻訳技術は「英語から自国語へ」というものが主流であることから、日本語をそのまま多言語に訳すよりも、まずは英語に訳し、それを中心として自動翻訳で各国語に訳すことが適切である。



その場合の英語も、複雑な構文では誤訳の原因となるので、米国連邦法における「Plain Writing」、すなわち中学卒業程度の言語能力で理解できる「平易な英語」とすべきである。

米国の発行しているガイドラインでの、「平易な英語」のための原則のうち重要なポイントは3つで、情報を必要としている人のニーズを考えるために「読者を特定する」「異なる読者層には別の対応をする」「読者のニーズに対応する」というもの。

具体的なコンテンツ作成のポイントは以下の通り。

- ・動詞：能動形を使用する。簡単な動詞を使用する。(例：「申請書を提出してください」→「申請してください」)。言葉を不必要に省略しない。
- ・名詞：中学生レベルで理解できる単語を使用する。
- ・代名詞：whatやthatはできる限り使用しない。
- ・文章：文章は短く。主語・述語・目的語は接近させる。二重否定や例外の例外を避ける。主たる文章を前に置き、例外や条件はその後に置く。言葉は丁寧に置く。
- ・段落：段落は短く。1段落には1つの話題。何についての段落かを説明する文章を、最初か最後に置く。段落と段落を繋げる言葉を使う。

訪日外国人客や障害者、高齢者を含め、全ての利用者のアクセシビリティを確保する必要があることを念頭に、ウェブサイトや自動翻訳といった技術を活用すれば、訪日外国人のストレスを減らして「おもてなし」が実現できるものである。

「2017 多言語対応・ICT化推進セミナー ～東京2020 オリンピック・パラリンピックに向けて～」

参考資料配布：<http://www.2020games.metro.tokyo.jp/multilingual/references/170704forum.html>

【参考】内閣府 定住外国人施策ポータルサイト掲載におけるやさしい日本語の活用に関するPlain English (平明な英語) についての調査

[http://www8.cao.go.jp/teiju/research/h25/plain\\_english/index.html](http://www8.cao.go.jp/teiju/research/h25/plain_english/index.html)

(平成29年度作成)